

ももカフェってどんなところ？

ももカフェとは、小林脳神経外科・神経内科病院のもの忘れ外来担当のスタッフが立ち上げたカフェです。もの忘れに悩む人や家族、仲間が集まって、お茶を飲みながら、悩み事や体験などを気軽に話し合ったり、ものづくりをしたり、認知機能を刺激するようなゲームをしたりして楽しい時間を過ごす場です。

場所は病院内のある場所をカフェ風にしつらえて使用しています。皆さんが心地よく過ごしてもらえるように、ももカフェスタッフがアイデアを出し合い、部屋をアレンジしました。

ももカフェという名前は、記憶＝memory(メモリ)の語音と呼びやすい名前ということでつけました。ももカフェの壁には2匹の猫の写真が飾られています。そのうちめずらしい毛色をした猫には「もも」という名前がつけられています。パッチリとした目でみなさんの活動を見守ってくれています。



なぜ、ももカフェが生まれたのか？

当院にももの忘れ外来を開設して4年が経過しました。診断のために必要な検査を行い、記憶の代償方法の指導、介護保険サービスの紹介、患者さんへの関わり方について説明するといった指導を行ってききましたが、まだできることがあるのではないかと感じていました。とくに介護保険の適応にならないような初期の軽い症状の方の治療の空白の時間を埋めるために何かできることはないか考えていました。そんなとき、福祉先進国では認知症カフェというものが、わが国でも※新オレンジプランにてその設置を促進していることを知りました。カフェには、当事者の方だけでなく、家族の方や認知症について詳しい専門家や認知症に関心のある方も参加することができます。いわゆる老人サロンとは異なります。参加者は同じ悩みをもつ人がおり、サポートする医療スタッフがそばにいます。このことを実感すると思います。そして、忘れてしまうことはあっても、どのようにすればそれが少なくて済むのか、生活がスムーズに行くのか、いろいろなヒントが得られるかもしれません。

これからどんなスタイルのカフェに成長していくか、誰にもわかりません。参加者の皆さんにも育てていただいて、皆さんの笑顔がたくさんみられるカフェとなるよう努めていきたいと思っておりますのでよろしく願います。

※新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略) 平成 27 年 1 月 27 日策定
認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で、よりよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指すことを基本的な考えとしている。

ももカフェの特徴

- ・参加費は 300 円です
- ・コーヒーやお茶などの飲み物、お菓子が用意されています
- ・医師、作業療法士などの専門のスタッフが参加しています

1、2、3 ももカフェ スタート!

平成二十八年一月二十三日(土)、その週に降った雪がまだ残る寒い日でしたが、第1回のももカフェを開催しました!

ももカフェには3組の参加者の方がお越しくださいました。ももカフェは、イギリスのメモリーカフェに倣い、カフェタイムとアクティビティタイムのふたつの構成で計画しています。第1回のプログラムは、大日方先生による講演、マスキングテープを使用した名札作り、自己紹介、カフェタイムでした。



講演



「ようこそももカフェへ」というタイトルで大日方先生がお話をしてくださいました! とてもわかりやすい内容でしたね。

名札作り



自分の好きなテープを選んで作りました。

カフェタイム



飲み物はコーヒー、緑茶、紅茶など。
おやつにお団子をいただきました!



ももカフェの活動方針

- ・私たちは参加者が主体的にカフェに参加できるように努めていきます。
- ・私たちは参加者が活動に参加するにあたり、最小限のお手伝いで行えるよう工夫していきます。
- ・私たちは参加者の方が知りたいと思う認知症に関する情報を積極的に提供していきます。
- ・私たちは参加者にとってカフェで過ごす時間が有意義なものとなるよう努めていきます。

**ももカフェの活動はこれから皆さんで作りに上げていきます。
皆さんの参加を心よりお待ちしております!**